

(株)光英科学研究所

創業50周年・設立25周年を迎える 乳酸菌生産物質の普及に尽力

同社は今年4月、創業50周年・創立25周年を迎える。乳酸菌生産物質の研究・開発に取り組み、普及・啓発に尽力してきた。今後はオープンマーケットへの浸透や科学的エビデンスの整備に注力し、一般消費者の認知度の向上を目指す。

1969年に東京・目黒で創業

同社の歴史を振り返る。村田公英代表は、乳酸菌生産物質入り飲料を販売していた実母の助言もあり、1959年に(株)義報社(大谷光瑞農芸化学研究所)に就職。大谷光瑞農芸化学研究所事業部・技師として働き始めた。研究所のトップを務めていたのが、日本で初めてヨーグルトを製造販売した正垣角太郎氏の子息である正垣一義氏だった。正垣氏は、乳酸菌の代謝産物である乳酸菌生産物質の製法を完成させ、商品化を実現させた人物。村田代表は、「正垣先生から菌の扱い方を教わったが、いきなりハイレベルの現場でスタートし、とにかくきつかった」と当時を振り返る。

その後、社名を「法光科学研究所」に変更するが、69年に財政難に陥り、存続が危うくなった。そこで、正垣氏は片腕だった金廣シズ子氏に、光英科学研究所の設立を依頼。その命を受けて、金廣氏と村田代表は69年に、東京都目黒区に光英科学研究所を創業した。

創業した光英科学研究所で原料供給と研究を開始したが、資金面で苦しいことになりなかった。このため、村田代表は20年以上にわたり、サラリーマン生活を送りながら、乳酸菌生産物質の研究を続けることとなる。その間に事業

が軌道に乗り始め、大量生産の開始を目的に、94年に埼玉県和光市に生産工場を設立し、法人化を果たした。翌95年には千葉中央研究所を設置し、同社の土台を築いた。2016年1月、本社・工場を現在の和光市新倉に移転。生産能力も増強し、月産12トン以上の生産体制を整えた。最大で月産24トンの生産も可能という。今春をめどに、健康食品GMPの取得を予定している。

乳酸菌生産物質の作用機序を解明へ

同社は、乳酸菌生産物質の普及・啓発を目指し、科学的エビデンスの整備を重視している。主力の『FF(ファインフローラ)16』は、複合乳酸菌生産物質の原液をバインダーなしで100%粉体化した機能性素材。無農薬栽培の国産大豆を用いた豆乳を培地に、4種類のビフィズス菌を含む16種35株の乳酸菌を共棲培養し、菌群が作り出した代謝物成分をエキスとして抽出している。

乳酸菌生産物質の研究にも力を入れる。慶応大学などとの共同研究で、メタボローム解析によって同素材に含まれる352種類の物質を特定。これまで明確でなかった乳酸菌生産物質の組成を明らかにした。さらに、昨年12月には、作用機序に関する研究の成果が海外



村田公英代表

の学術誌に掲載され、話題を呼んだ。安全性については各種試験によって確認済み。使用している各原料のトレーサビリティも確保できている。

乳酸菌生産物質の販売は順調に推移中。好調な国内需要に加え、中国、EU、東南アジアなどの海外需要が拡大傾向にあり、海外展開も本格化させる計画だ。食品用途だけでなく、化粧品用途の開発も進めている。昨年10月、H&B(ヘルス&ビューティー)事業部を設定。健康食品と化粧品のネット販売にも乗り出している。

COMPANY INFORMATION

所在地：埼玉県和光市新倉5-1-25(本社)

TEL：048-467-3345

FAX：048-467-3374

URL：<http://www.koei-science.com>

事業内容：乳酸菌生産物質の製造・販売、乳酸菌の培養